

国内外におけるユネスコ活動の推進

令和2年度概算要求額 420百万円
前年度予算額 328百万円

- 戦後、我が国が初めて加盟した国際機関であるユネスコとは**長く緊密なパートナーシップ**を形成。ユネスコは、2020年以降、「持続可能な開発のための教育(ESD):SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」といった**新たなフェーズが始動**する。
- こうした中、我が国は、**ユネスコ活動の多様なステークホルダーを結集し、日本の強みとユネスコの専門性を組み合わせた取組**を重点的に実施することで、国内外のユネスコ活動を**戦略的且つ効果的に推進**。

信託基金を通じたユネスコ事業への協力～SDGs達成と我が国のプレゼンス向上に向けて～ 240百万円(200百万円)

信託基金協力事業の実施を通じ、SDGs達成に向けた国際貢献・協力を進めつつ、我が国の強みを生かした事業を戦略的・重点的に推進。我が国の影響力・プレゼンスを向上するとともに、重要施策において一層主導的な立場を確保。

アジア太平洋地域における教育・科学分野での戦略的・重点的支援

○開発途上国への教育協力事業

(アジア太平洋教育協力信託基金) 60百万円(50百万円)

多文化共生のための異文化理解教育や先端技術を活用した教育等において、我が国の知見・経験とユネスコの専門性を結集し、質の高い協力プログラムを共同開発

○ユネスコ地球規模課題の解決のための科学事業信託基金

拠出金40百万円(40百万円)

ユネスコ科学事業(海洋、水、生物多様性分野等)を通じ、能力開発・リーダー育成、研究ネットワーク形成、域内政策形成等を支援

ユネスコにおける我が国の主導的立場確保に資する ユネスコ重点分野・課題への貢献

○SDGs達成に向けたESD信託基金拠出金 70百万円【新規(組替※)】

「ESD for 2030」を効果的に推進するため、各国関係者の能力開発と政策立案支援、多様なステークホルダー(官民)間の知見の結集、ESD政策の存在感の向上に資する事業を実施

※既存事業(60百万円)を組替

○ユネスコ「世界の記憶」協力事業信託基金拠出金

70百万円(50百万円)

記憶物の保全・保護等に関する能力開発のためのワークショップ開催や各記録物の媒体に応じたデジタルアーカイブの構築支援

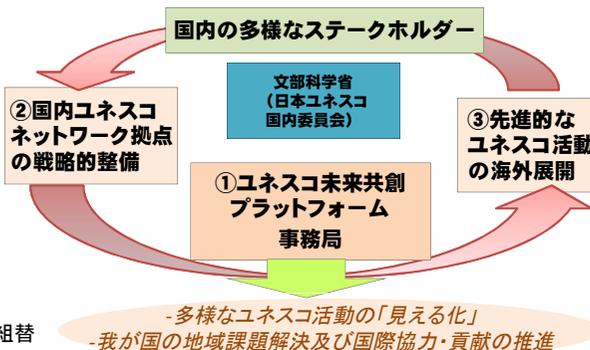
ユネスコ未来共創プラットフォーム ～世界と地域をつなぐユネスコ活動の推進～

120百万円【新規(組替※)】

ユネスコ活動の**多様なステークホルダーを結集し**、地方創成や多文化共生の観点も踏まえつつ、**国内のネットワーク拠点の戦略的整備**と、**先進的なユネスコ活動の海外展開**を一体的に推進。

- ✓ ユネスコ未来共創プラットフォーム事務局の構築
- ✓ 国内ユネスコネットワーク拠点の戦略的整備
- ✓ 先進的なユネスコ活動の海外展開

※既存事業(110百万円)を組替



SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業 60百万円(54百万円)

国内外で高まるESDのニーズを踏まえ、SDGs達成の担い手を育む多様な教育活動を実施・支援し、**SDGs達成の担い手に必要な資質・能力の向上**を図る。

- ✓ カリキュラム等の開発・実践
- ✓ 教師教育の推進
- ✓ 教育(学習)効果の評価と普及
- ✓ ユース世代の活動の推進

SDGs達成に向けた貢献を果たすと同時に、我が国の影響力・プレゼンスを向上